

# JaSECT 学術大会における一般演題抄録における 査読ガイドライン（チェックリスト方式）

一般社団法人 日本体外循環技術医学会

このガイドラインは、JaSECT 学術大会に投稿される一般演題の抄録を適正に査読するためのガイドラインです。本学会の掲載論文と同等の要件を満たすようチェックリストを作成しました。これに沿って査読をお願いします。

なお、最終的な採否の判断は大会長の責任により決定されます。

## チェックリスト

- 一般演題の抄録でも基本的には論文と同等であり、原則として、IMRAD 形式（Introduction, Methods, Results And Discussion）（緒言～考察、結語）の記載であることを確認する。（原則として、フリーフォーム記載は一般演題として不適切です）
- 表題は内容を適切に表現している。（商品名を用いていないかなども確認する。）
- 目的・背景は研究の意義が明確である。
- 研究方法は、研究目的・目標達成のために妥当である。
  - 対象は適切である。
  - データ収集方法および手順を示している。
  - 分析方法は妥当である。
- 結果は研究目的にそった結果を示している。事実を客観的に示している。
- 考察は得られた結果に基づいた解釈をしている。研究目的に沿った考察で一貫性がある。
- 発表内容に個人や企業への誹謗中傷がないことを確認する。
- 倫理的配慮がなされているか確認する。

具体的には以下を参考にする。

- イニシャルの表記がないか確認する。
- 症例報告では、日付の明記が患者の特定に至る場合がある。20XX 年など、特定できない工夫がなされているか確認する。
- 身長や体重は、治療条件の評価に必要な項目であるため削除する必要はない。
- 年齢は正確な年齢ではなく、〇〇代と記載されているか確認する。

- 未承認装置が使用されていないか確認する。（倫理委員会等で認められている場合は、商品名を記載しない）
- 対象者の不利益が生じないように配慮している。
- 体外循環と関係ない発表でないか確認する。ただし、大会長が承認した場合はこの限りではない。
- 製品などの企業宣伝が強すぎないか確認する。
- 文章は解りやすい表現となっているか確認する。
  - 出来るだけ短文で記載されている。（「・・・し、・・・」、「・・・り、・・・」「・・・き、・・・」などが多用されて長文となっていないか確認する。）
  - 論旨がはっきりしているか確認する。（主語と述語が一致している。代名詞が多用されていない。異なる内容は改行が適切に行われている。）
- 漢字および仮名書きが正しく使用されているか確認する。
  - 『体外循環技術』 投稿原稿のしおり (<http://jasect.sakura.ne.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/2010002toukou.shiori.pdf>) に漢字を用いてはいけない例、なるべく仮名書きする語、原則として漢字を使用する語、正しい送り仮名、単位記号を参考に確認する。
  - 本学会では内閣告示第2号の「外来語表記」を参考に3音以上の用語でも長音符号は省くことなく付けることを原則としている。
- その他
  - （以下・・・）と省略する場合は、（・・・）のみとする。
  - 抄録本文内で<および>の記号を使うときは（たとえば  $p < 0.05$ 、 $CO > 2.2$  が挙げられます）、必ず全角の<および>であるか確認する。
- 演題は他の学会等で未発表のものであるか確認する。
  - Googleなどの検索サイトや医中誌等により検索をお願い致します。キーワード、施設名、発表演者名による検索のほか、共同発表者が発表していることもあります。
  - JaSECT 地方会、日本臨床工学技士会での二重発表は多く見られます。検索できる範囲で確認をお願い致します。
  - 二重発表に近い場合でも、論旨が違えば異なる報告として採択する可能性も多くあります。また、投稿者が『以前とは別物』と主張することもあります。最終的には大会長の判断になります。

<注意>

査読委員のみが投稿者の氏名や施設名などを知りうるシングルブラインド査読方式ですので、秘匿性には十分にご配慮の程、お願い申し上げます。

また、臨床研究はあらかじめ所属施設などにおいて倫理審査委員会などによる審査・承認を得ている必要があるが、現状、COI 開示義務同様、投稿者の自己責任であるという認識・視点での査読をお願いします。

2021年10月3日作成